

岡山浄水場
薬品沈澱池点検清掃業務委託

特記仕様書

令和7年度

岡山県広域水道企業団

目次

第 1 章 総則

第 1 条(適用範囲)-----	1
第 2 条(履行場所)-----	1
第 3 条(関係法規の遵守)-----	1
第 4 条(連絡体制)-----	1
第 5 条(軽微な変更)-----	1
第 6 条(疑義の解決)-----	1
第 7 条(提出書類)-----	1

第 2 章 岡山浄水場薬品沈澱池点検清掃業務委託

第 1 条(業務範囲)-----	2
第 2 条(業務目的)-----	2
第 3 条(業務内容)-----	2
第 4 条(業務管理)-----	3

第 1 章 総則

第1条（適用範囲）

本仕様書は、岡山県広域水道企業団（以下、「甲」という）と受注者（以下、「乙」という）が契約を締結する岡山浄水場薬品沈澱池点検清掃業務委託に適用する。

第2条（履行場所）

履行場所は、以下に示す場所とする。

岡山市東区寺山650 岡山県広域水道企業団 岡山浄水場 薬品沈澱池

第3条（関係法規の遵守）

受注者は、業務の履行にあたり、関係法令、条例およびその他の諸規程を守り、作業の円滑な進捗を図ること。

第4条（連絡体制）

- 1 乙は、甲およびその他関係機関との連絡を保たなければならない。
- 2 乙は、業務の履行にあたり甲およびその他関係機関への届出などを遅延なく実施しなければならない。

第5条（軽微な変更）

- 1 乙は現場の状況などにより、作業位置や方法に関して、やむをえず行う軽微な変更については、担当職員と協議し調整すること。
- 2 本仕様書に明記していない事項であっても、業務上当然必要と認められるものは、乙において無償で行うこと。

第6条（疑義の解決）

乙は、契約に定める事項について疑義が生じた場合には、担当職員と協議すること。

第7条（提出書類）

- 1 提出書類は、一般仕様書第36条第1項から第3項の記載のとおりとする。ただし、担当職員が別途、他の書類の提出を求める場合もある。
- 2 業務実施報告書には、作業内容及び点検結果を記載すること。また、点検結果により修繕を要すると認められる事柄がある場合は、あわせて記入すること。
業務委託写真帳は、作業状況ごとに撮影の上、写真帳へ項目別に整理して担当職員へ提出すること。また、撮影に関しては委託用黒板を入れること。
提出する書類の大きさは、すべてA4版にて編集すること。

第 2 章 岡山浄水場薬品沈澱池点検清掃業務委託

第1条（業務範囲）

岡山浄水場 薬品沈澱池 点検清掃

第2条（業務目的）

本委託は、岡山浄水場薬品沈澱池の機能維持を図るため、池内清掃を実施し、沈澱池内外に設置している機械設備を点検するものである。

第3条（業務内容）

1 岡山浄水場 薬品沈澱池 点検清掃

点検箇所・数量については下記項目を基準とする。

(1) フラッシュミキサー(4基)

- ア フラッシュミキサー減速機の外観目視点検
- イ フラッシュミキサー減速機の動作、異音、振動確認
- ウ フラッシュミキサー減速機の運転電流測定
- エ フラッシュミキサー減速機電動機の絶縁抵抗測定
- オ フラッシュミキサー減速機のオイル交換

(2) 流入渠(8槽)

- ア 躯体のひび割れや損傷箇所の外観目視点検
- イ 流入ゲートの外観目視点検

(3) フロック形成池(3段×8槽)

- ア 躯体のひび割れや損傷箇所の外観目視点検
- イ 排水トラフの外観目視点検
- ウ (池内) フロキュレータの外観目視点検(軸、軸受、攪拌翼等)
- エ (池内) フロキュレータの動作、異音、振動の確認
- オ (池内) フロキュレータ軸受ブッシュの磨耗確認(軸との隙間測定)
- カ (室内) フロキュレータ減速機の外観目視点検
- キ (室内) フロキュレータ減速機の動作、異音、振動確認
- ク (室内) フロキュレータ減速機電動機の絶縁抵抗測定
- ケ (室内) フロキュレータ減速機の運転電流測定
- コ (室内) フロキュレータ減速機のオイル交換(1列目)
- サ (室内) フロキュレータ減速機のグリス補給(2列目、3列目)

(4) 沈澱池(5段×8槽)

- ア 躯体のひび割れや損傷箇所の外観目視点検
- イ 排水トラフの外観目視点検
- ウ 傾斜板式沈降装置の外観目視点検

- エ (池内) 搔寄機の外観目視点検(軸、軸受、スプロケット、チェーン、フライト、レー
ル等)
- オ (池内) 搔寄機の主務チェーンのチェーン張り確認、及び必要に応じチェーン張り
の調整
- カ (池内) 搔寄機各スプロケットの歯型点検(従動スプロケット[2箇所/槽]、主務スプロ
ケット[10箇所/槽])
- キ (池 内) 搔寄機の動作、異音、振動の確認
- ク (地上部) 搔寄機減速機の外観目視点検
- ケ (地上部) 搔寄機減速機の動作、異音、振動確認
- コ (地上部) 搔寄機減速機電動機の絶縁抵抗測定
- サ (地上部) 搔寄機減速機の運転電流測定
- シ (地上部) 搔寄機減速機のグリス補給

(5) 流出帯(8槽)

- ア 躯体のひび割れや損傷箇所の外観目視点検
- イ 流出帯の損傷箇所等外観目視点検

(6) 流出渠(8槽)

- ア 躯体のひび割れや損傷箇所の外観目視点検
- イ 流出ゲートの外観目視点検

(7) 排泥促進ポンプ(8基)

- ア (室内) 吸込・吐出圧力測定
- イ (室内) 電動機電流値測定
- ウ (室内) 軸受温度の上昇確認
- エ (室内) 振動測定
- オ (室内) 騒音測定
- カ (室内) 軸受状態確認
- キ (室内) ボルト等の緩み確認
- ク (室内) 配管等からの漏れ確認
- ケ (室内) 塗装状態の確認
- コ (室内) グランドパッキン交換(No.2-1, No.2-2のみ)
- サ (室内) その他必要なこと

第4条 (業務管理)

- 1 各点検作業は、熟練された技術者を派遣し、後記の調整および試験、消耗部品および油脂類の交換補給等を実施すること。
- 2 業務の履行に水や電源が必要となる場合には、担当職員の承諾を受けることで、排泥促進ポンプやコンセント等の甲の設備を使用することができる。なお、甲の設備を使用する際には、設備に損傷を与えないよう十分に注意すること。

- 3 池内の水抜きに必要な水中ポンプ、発電機、ケーブル等の仮設資材および洗浄用ホース、清掃用具(スクレイパー、デッキブラシ、木製レーキ等)類、脚立、はしご等その他点検清掃に必要な物は、乙で負担すること。これらの資機材および服装等は清浄な物とし、使用前に担当職員の下承を得るものとする。
- 4 フロキュレータ、集水トラフの清掃は地上部および池内から放水を行いながら清掃用具で清掃を行うこと。また、作業の際は、当該設備に損傷を与えないよう十分に注意すること。
- 5 傾斜板式沈降装置の清掃は、傾斜板等の状態を監視しながら徐々に水位を下げ、傾斜板等が破損しないよう慎重に、地上部および池内からの放水により水洗い作業を行うこと。
- 6 壁面、底面に付着または堆積している汚泥は、放水を行いながら清掃用具で清掃すること。
- 7 沈澱池底部に設置している掻寄機およびホッパー部分に設置してある排泥促進管等は破損しやすいことから物を衝突させないように十分に注意すること。また、これらの物に乗って作業してはならない。
- 8 フロキュレータ軸受ブッシュの磨耗確認をする際は、測定可能な範囲から1点以上を選択し、オイレスメタルとスリーブの隙間を測定すること。
- 9 掻寄機各スプロケットの歯型点検をする際は、当該スプロケットのくぼみの型枠を用意し、型枠とくぼみの隙間をテーパーゲージ等で測定すること。なお、測定点は担当職員の指示する点を基準とし、90度おきに全4点とする。また、スプロケットに偏摩耗が見られる場合は、担当職員立会のもと確認を実施すること。
- 10 外観目視点検により、ひび割れが確認された場合は、ひび割れ箇所、ひび割れの長さ、ひび割れの幅を調査すること。その際、周囲の機器や構造物等に損傷を与えないように、十分に注意すること。
- 11 清掃により発生した洗浄排水は、自然流下にて排泥池に送るものとする。また、壁面、傾斜板式沈降装置、床面ごとの清掃が完了した時点で、担当職員の確認を得るものとする。
- 12 各沈澱池の清掃後、排泥池流入管に取り付けたネットに捕集されたゴミを回収すること。清掃直後は排泥池水位が高く作業できないため、別に回収日を設け、ゴミ回収後のネットは再度流入管に取り付けること。ネットに破損等不具合が確認された場合は、担当職員に報告すること。
- 13 作業に際しては、必要な転落・墜落防止対策を行うこと。また、水気のある場所で電気を使用する場合には、必要な感電事故防止対策を行い、安全には十分に配慮するものとする。

また、作業中は機器への巻き込み防止対策を行うこと。

- 14 点検は、沈澱池の清掃にあわせて実施し、その結果を報告すること。各機械設備は浄水処理において重要な設備であるため、点検は十分な点検実績を持つ者によらなければならない。また、事前に点検実施者の実績表を提出し、担当職員の上承を得るものとする。
- 15 集水トラフの周囲に生えている雑草については、汚泥とともに流すと排泥ポンプを詰まらせる可能性があるため池内に落下させないこと。また、回収した雑草は担当職員の指示する場所へ移動すること。
- 16 報告書の記載項目等については、事前に担当職員と協議し、技術的視点に基づいた書類とすること。また、点検対象部分以外であっても異常を発見した場合及び施設等を破損した場合には直ちに担当職員に報告すること。
- 17 作業日程は、原則として9月下旬から翌年2月下旬までに実施するものとする。また、1池作業につき原則として7日以上の間隔をおくものとするが、担当職員が認めた場合はこの限りではない。
- 18 点検に際しては下記項目を基準とする。
 - (1) 点検を行う際には、あらかじめ前年度の報告書を元に、担当職員から現在の劣化及び故障状況を聴取し、点検の参考とすること。
 - (2) 点検は、原則として目視、触接又は打診等により行うこと。
 - (3) 測定を行う点検は、定められた測定機器、当該設備専用の測定機器を使用すること。
 - (4) 異常を発見した場合には、同様な異常の発生が予想される箇所の点検を行うこと。
 - (5) 点検作業の結果、対象部分の機能及び性能を現状より低下させてはならない。